授業科目名	開発と国際協力	単位数	2
担当教員名	三村　悟	担当形態	単独
実務内容 （実務家教員の場合）	ODA 実施機関職員としての国内外での実務経験と、技術協力専門家として国際機関および開発途上国政府機関において指導を行った経験をもとに、国際協力事業の計画・運営や SDGs について臨場感を持って教授する。（実務経験有）		

「学位授与の方針」との関係
開発途上国への支援や国際的な問題への対応を広い視野で考えることで、学位授与方針のうち特に「多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけ」ることに寄与する。

授業の到達目標及びテーマ
グローバル化に伴い複雑さを増す国際関係や、国境を越える地球全体の問題（地球規模課題）に関する知識をベースとして、国際協力（開発協力）の重要性について理解するとともに、政府開発援助（ODA)や国際機関による活動だけでなく、近年大きな役割を果たすようになっている NGO や民間企業など、多様な主体による協力活動について理解を深める。あわせて貧困や感染症、気候変動など、世界が直面する地球規模課題への対応について学ぶ。

授業の概要
　世界 195 か国のうち、150 以上が開発途上国と呼ばれる国々である。開発途上国の多くは、貧困を根本的な原因とする保健衛生や教育、環境や災害への脆弱性などの問題を抱えており、こうした問題は、世界規模での感染症の蔓延や環境問題、紛争といった形で世界全体を脅かしている。このように国境を越えて広く影響を及ぼす地球規模課題には、世界各国が力を合わせて取り組む必要がある。
国際社会全体の平和と安定、発展のために、開発途上国・地域の人々を支援することが開発協力である。近年、開発協力には政府や国際機関だけでなく、市民団体や企業など、多様な主体の参加が求められている。本講義では、環境や防災分野などの具体的な国際協力の事例も紹介しながら、開発協力の成果や課題について学ぶ。

授業計画
第１回：なぜ国際協力（開発協力）が必要なのか
第２回：開発協力の基本的な仕組
第３回：開発協力に対する考え方と方法の変化（１）
第４回：開発協力に対する考え方と方法の変化（２）
第５回：国境を越える開発問題
第６回：貧困削減への取組み
第７回：貧困削減のための良い統治
第８回：平和構築と復興支援
第９回：気候変動と自然災害への対応
第１０回：持続可能な開発目標（SDGs）
第１１回：グローバル・ガバナンス
第１２回：ジェンダーと多様性
第１３回：民間企業による開発への取り組み

第１４回：NGO、市民社会による取り組み
第１５回：社会包摂と地球規模の取組み
定期試験

スクーリングでの学修内容
テキストの内容全般に関わる説明に加え、環境、気候変動および防災分野を中心に、開発協力の具体的な事例を紹介する。また、持続可能な開発目標（SDGs）などの国際枠組について詳述する。
（主に、１，５，９，１０，１２～１５回の内容を含む。）

教科書
（１）下村恭民、辻一人、稲田十一、深川由起子（２０１６）『国際協力　その新しい潮流 第3版』有斐閣選書

参考文献
（１）デビッド・ヒューム（２０１７）『貧しい人を助ける理由　遠くのあの子とあなたのつながり』日本評論社
（２）紀谷正彦・山形辰史（２０１９）『私たちが国際協力する理由　人道と国益の向こう側』日本評論社
（３）大塚啓二郎（２０１４）『なぜ貧しい国はなくならないのか』日本経済新聞出版社
（４）日能研教務部 編（２０１７）『国連 世界の未来を変えるための17の目標 SDGs 2030年までのゴール』日能研
（５）国連広報センターWebサイト『2030アジェンダ』
(http://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/)
（６）外務省Webサイト『ODA60周年ー日本のODAの成果とこれからの方向性』
(https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryo/hakusyo/14_hakusho/honbun/b1/s1_1.html)
(https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryo/hakusyo/14_hakusho/honbun/b1/s1_2.html)
（７）「ODAの歩みと成果」
(https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/files/000224038.pdf)

学生に対する評価
スクーリング評価（２５％）、レポート評価（２５％）、科目修得試験（５０％）を総合して評価する。